

# 1. 福島乳幼児妊産婦支援プロジェクト (FSP)

## 2014 年度活動報告

本プロジェクトは、東日本大震災を伴う福島第一原子力発電所事故後、放射能汚染による健康被害の不安を抱えて避難している・被災している乳幼児家族や妊産婦のニーズを把握し、それらのニーズに基づき対応できる団体との連携した体制のもと、サポートを行うことを目的としている。

事故後4年目に入ってなお、避難した・被災した乳幼児家族がおかれた状況は、依然として厳しく、先行きが不透明ななかで問題は深刻化しているといってもよい。しかしながら、関連するメディア報道は格段に少なくなり、時の流れと共に問題が風化しつつあることが深く懸念される。こうしたことから、本プロジェクトは、避難者直接支援（行政や支援組織等へのつなぎを含める）にも従事するかたわら、活動の主軸を、被災者及び支援者への聞き取り調査や、社会への公表と問題提起へ移してきている。

2014 年の活動・研究を、Ⅰ 聞き取り及びアンケート調査・視察、Ⅱ 研究会開催、Ⅲ（聞き取り調査やアンケートデータ等の分析にもとづく）社会発信、に大別し、以下に記す。なお、本プロジェクトに関連する研究調査に際しては、昨年度に引き続き科学研究費助成金（挑戦的萌芽研究 2013 年～2014 年、研究代表者：重田康博、研究課題「原発震災後の人間の安全保障の再検討—北関東の被災者実態調査に基づく学祭的考察」課題番号：25590030）や稲盛財団の研究助成金（2013～2014 年、助成対象者：高橋若菜、研究課題「福島原発事故後の市民社会の変容～新潟県内の福島乳幼児・妊産婦家族と地域社会、市民社会の交差を事例に」）に基づき実施した。また新たに宇都宮大学の助成金（学長支援プロジェクト・地域志向教育研究支

援事業）を獲得し、原発震災被災者の個々の問題把握とその公表に力を注いだ。

### Ⅰ 聞き取り及びアンケート調査・視察

- 1) 水俣病受難者・支援者聞き取り、水俣病関連施設視察（2014年3月26日～3月29日）
- 2) 福島被災者に関する新潟記録研究会（高橋若菜・田口卓臣）：Ⅱ 2) を参照。
- 3) 栃木県内の避難者聞き取り（清水奈名子・阪本公美子・匂坂宏枝）  
栃木避難者母の会・FSP編集委員会『原発避難を語る－福島県から栃木県への避難の記録－』（2015年2月に教材として完成）。福島県から栃木県に避難した方々の証言集作成作業報告を参照。
- 4) 支援団体聞き取り（重田康博）  
首都圏の当事者団体、福島県内の支援団体への聞き取り
- 5) 栃木県北地域被災者の聞き取り（清水奈名子）  
「那須塩原・放射能から子どもを守る会」の関係者への聞き取り及び那須塩原市での民間団体による甲状腺検査の受検者アンケート（2014年6月14・15日）  
甲状腺検診の受検者アンケート（那須塩原市）結果報告（第1報）を参照。

### Ⅱ 研究会の開催

- 1) 科研費プロジェクト「原発震災後の人間の安全保障の再検討—北関東の被災者実態調査に基づく学祭的考察」研究会
  - a. 第2回 ガバナンス研究会・被災者の実態調査研究会、2014年4月2日、於：高崎タワー21

## II 福島乳幼児・妊産婦支援プロジェクト（FSP）

話題提供：稲垣文彦（中越安全防災推進機構 復興デザインセンター長）「原発震災被災者問題にかかわる行政や中間組織の支援状況と課題」

- b. 第2回 人間の安全保障研究会、2014年9月28日、於：宇都宮大学（司会：清水奈名子）

話題提供1：清水奈名子「危機に瀕する人間の安全保障—福島原発事故後における健康を享受する権利の侵害を中心として—」

話題提供2：阪本公美子・勾坂宏枝「栃木県へ避難している方へのアンケート分析進捗報告」

### 第3回 ガバナンス研究会

（司会：高橋若菜）

話題提供1：原口弥生（茨城大学）  
「茨城県内の被災者と支援の状況の変遷について」

話題提供2：原田峻（立教大学）「埼玉県内の避難者と支援の状況の変遷について」

支援活動質向上のための実践研修

講師：ニバルレキレ 小山えり子・山田寛

### 2) 福島被災者に関する新潟記録研究会

（稲盛財団の研究助成「福島原発事故後の市民社会の変容—新潟県内の福島乳幼児・妊産婦家族と地域社会、市民社会の交差を事例に—」）

- a. 第7回 福島被災者に関する新潟記録研究会、2014年6月13日、於：新潟大学  
話題提供：稲垣文彦（中越安全防災推進機構 復興デザインセンター長）「中越から東日本へ」
- b. 第8回 福島被災者に関する新潟記録研究会、2014年7月25日、於：新潟大学

話題提供：細貝和司（新潟県防災局防災企画課課長）「新潟県による広域避難支援」

- c. 第9回 福島被災者に関する新潟記録研究会、2014年8月6日、於：新潟大学

話題提供：増田昌子（共に育ち合い（愛）サロンむげん代表）「柏崎で原発避難者を迎えて～むげんの“姐さん”、過去、現在、未来を語る」

- d. 第10回 福島被災者に関する新潟記録研究会、2014年11月14日、於：新潟大学

話題提供：平賀貴子（新潟日報県庁記者クラブ記者）「新潟日報社報道記者として、原発震災被災者にかかわって」

- e. 第11回 福島被災者に関する新潟記録研究会、2015年2月19日、於：新潟大学

話題提供：富澤佳恵（新潟NPO協会常務理事）「NPO協会として、原発震災避難問題にかかわって」（仮題）

## III 社会発信

### 1) 出版・論文公表

- A. 避難者・支援者がおかれた状況についての質的分析・記録公表
- ・高橋若菜・田口卓臣編『お母さんをささえ続けたい—原発避難と新潟の地域社会—』（マイブックレット28）本の泉社。
  - ・阪本公美子・清水奈名子・高橋若菜・田口卓臣「福島乳幼児・妊産婦支援プロジェクト」（コラム）、宇都宮大学国際学部編『世界を見るための38講』、下野新聞社、2014年。
  - ・田口卓臣「非公式の記憶の痕跡——3.11に関する証言収集に向けて」（研究ノート）、『宇都宮大学国際学部論集』第38号、2014年9月、115-128頁。
- B. 避難者状況分析（量的分析）
- ・高橋若菜「福島県外における原発避難者

の実情と受入自治体による支援—新潟県による広域避難者アンケートを題材として—」『宇都宮大学国際学部研究論集』第38号、35-51頁、2014年9月。

- ・阪本公美子・匂坂宏枝「3.11震災から2年半経過した避難者の状況—2013年8月栃木内避難者アンケート調査より—」『宇都宮大学国際学部研究論集』第38号、13-34頁、2014年9月。

- ・高橋若菜「原発広域避難者の実情の量的考察—福島隣県5県における広域避難者アンケート調査を題材として—」『環境と公害』岩波書店、2015年（掲載決定）。

#### C. 人間の安全保障について

- ・清水奈名子「『人間の安全保障』の危機と『保護する責任』」吉川元他（編）『グローヴァル・ガバナンス論』法律文化社、286-298頁、2014年。
- ・清水奈名子「原発事故子ども・被災者支援法の課題：被災者の健康を享受する権利の保障をめぐる」『社会福祉研究』119号、10-18頁、2014年4月。
- ・清水奈名子「危機に瀕する人間の安全保障とグローバルな問題構造—東京電力福島原発事故後における健康を享受する権利の侵害（前編）・（後編）—」『宇都宮大学国際学部研究論集』第39号、37-66頁、2015年2月。

#### D. 書評その他

- ・阪本公美子「守友裕一・大谷尚之・神代英昭編著『福島 農からの日本再生—内発的地域づくりの展開—』『農業と経済』2014年10月号、120頁。
- ・田口卓臣「静かに一石が投じられた—古今東西のカタストロフィの厚みを多視点的に描き出す—西山雄二編『カタストロフィと人文学』勁草書房、『週刊読書人』2014年10月31日号、4面。

- ・高橋若菜「お母さんを支え続けて」『子どものしあわせ』2015年3月号、本の泉社（刊行予定）。

#### 2) 学会発表

国際開発学会 2014年11月30日、於：千葉大学

企画セッション「原発震災後の人間の安全保障の再検討」（座長：重田康博）

- ・清水奈名子「3.11原発震災と継続する『人間の安全保障』の危機—栃木県における被害の実態とグローバルな問題構造—」
- ・高橋若菜「原発広域避難者の実情把握と生活再建に向けたガバナンス上の課題—福島隣県5県における広域避難者アンケート調査を題材として—」
- ・重田康博「原発震災後の被災者支援を巡る国家と市民社会のあり方に関する考察—市民社会の役割と課題—」

#### 3) 講演

- ・重田康博「福島乳幼児妊産婦プロジェクト報告/国際ソロプチミスト講演会第2部 パネルディスカッション」（2014年2月17日 於：神奈川）。
- ・清水奈名子「健康に対する権利と被災者の現状—栃木県における乳幼児保護者アンケートから—」アナンド・グローバー氏来日シンポジウム「福島原発事故後、健康の権利をどう実現できるか？：その現状と見地」同志社大学（2014年3月22日 於：京都）。
- ・清水奈名子「原発事故と栃木県の被災状況—子育て世帯の健康不安を中心に—」福島大学大学院東京サテライトキャンパス（2014年5月30日 於：東京）。
- ・清水奈名子「健康に対する権利と被災者の現状—栃木県からの報告—」関西学院

## II 福島乳幼児・妊産婦支援プロジェクト (FSP)

大学災害復興制度研究所研究会（2014年7月19日 於：東京）。

- ・重田康博「原発震災後の開発研究の再検討－被災者・避難者の困難と課題」「原発震災シンポジウム」国際開発学会「原発震災から再考する開発・発展のあり方」研究部会他共催（2014年7月25日 於：東京）。
- ・清水奈名子「放射線による健康影響への不安－原発事故後の暮らしを考える－」栃木県健康増進課主催放射線による健康影響に関する意見交換会、国際医療福祉大学（2014年8月24日 於：栃木）。
- ・Shimizu, Nanako. “The Anxieties over Radiation Risks and their Sociopolitical Context（放射線被ばくによるリスクへの不安とその社会的・政治的背景）” UNU-UNSCEAR Public Seminar, November 11th, 2014, Tokyo.
- ・清水奈名子（パネリストとして登壇）宇都宮大学男女共同参画推進室主催・FSP共催「防災・震災復興と『男女共同参画』－震災から得た教訓は何か－」（2014年11月16日 於：栃木）。宇都宮大学男女共同参画室主催・FSP共催シンポジウム「防災・震災復興と『男女共同参画』－震災から得た教訓は何か－」報告を参照。

今年度の活動、メンバーが執筆した論文と報告をまとめ、別途科学研究費「原発震災後の人間の安全保障の再検討－北関東の被災者実態調査に基づく学際的考察」論文集として公表する予定である。

## 福島乳幼児妊産婦支援プロジェクト (FSP)

代表 重田 康博

事務局長 阪本公美子

メンバー 清水奈名子 高橋 若菜

田口 卓臣

スタッフ 匂坂 宏枝